

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立第三小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 27人）

4. 調査の内容

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

- （ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- （イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- （ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問紙調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問紙調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

（2）学校質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国より高い。平均正答数の全体的な分布は全国とほぼ同じであるが、上位層と中位層が多い傾向である

平均正答率（本校 70 / 泉佐野市 62 / 大阪府 66 / 全国 67.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p><正答率が全国よりも高い問題、または正答率が80%を上回っている問題></p> <p>1一 原因と結果など情報と情報との関係を理解することについて、おおむね理解できている (77.8/64.7)</p> <p>1三(1)ウ 漢字を文の中で正しく使うことについて、おおむね理解できている (85.2/72.6)</p> <p>1三(2)イ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことについて、理解できている (100.0/93.1)</p> <p>2一 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することについて、理解できている (100.0/90.0)</p> <p>2三 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことについて、おおむね理解できている (85.2/62.0)</p> <p>3三 日常よく使われている敬語について、おおむね理解できている (59.3/57.6)</p>	<p><正答率が全国よりも10Pt以上低い問題、または正答率が40%を下回っている問題></p> <p>1二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについて、課題がある (33.3/26.7)</p> <p>2二 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることについて、課題がある (51.9/67.4)</p> <p>3二 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることについて、課題がある (25.9/40.5)</p>

(考 察)

- ・おおむね良好な結果である。特に知識・技能における、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する正答率が高い
- ・目的に応じて資料を読みとり、必要な情報を見付けたり自分の考えをまとめたりする問題において、正答率が低くなる傾向や無解答の児童が増える傾向が見られる

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好き	82.1	61.5	○	20.6
国語の勉強は大切だと思う	100.0	94.2	◇	5.8
国語の授業の内容はよく分かる	96.4	85.7	○	10.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100.0	92.8	◇	7.2
国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいる	100.0	83.9	○	16.1
国語の授業で、立場や考え方の違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている	82.1	76.8	◇	5.3
国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章の良いところを見付けている	75.0	70.2		4.8
国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している	89.3	80.4	◇	8.9

○国語の学習が好きと答えた児童の割合が、全国をかなり上回っており、学習の内容がよくわかると答えた児童の割合も高い。児童が充実感を持って学習している様子がわかる

○国語で学習したことは、社会に出たときに役に立つこと、言葉が人との関係づくりにおいて大切な役割を果たしていることについて、すべての児童が感じることができている

○児童が自分の書いた文章を友達とよりよく伝え合うことで、深まりを感じることができる授業づくりの工夫をさらに進めていきたい

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国より高い。平均正答数の全体的な分布は全国とほぼ同じであるが、上位層、中位層と下位層との差が見られる

平均正答率（本校 66／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 62.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p><正答率が全国よりも高い問題、または正答率が80%を上回っている問題></p> <p>1（1） 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることについて、理解できている (100.0/93.5)</p> <p>1（2） 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることについて、おおむね理解できている (88.9/85.7)</p> <p>2（2） 正方形の意味や性質の理解について、おおむね理解できている (92.6/87.2)</p> <p>4（2） 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることについて、おおむね理解できている (88.9/75.7)</p> <p>4（3） 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できることについて、おおむね理解できている (66.7/56.2)</p> <p>4（4） 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることについて、おおむね理解できている (77.8/64.6)</p>	<p><正答率が全国よりも10Pt以上低い問題、または正答率が40%を下回っている問題></p> <p>2（3） 正三角形の意味や性質の理解について、課題がある (25.9/24.9)</p> <p>2（4） 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することについて、課題がある (11.1/20.8)</p>

（考 察）

- ・おおむね良好な結果である。特に変化と関係、データの活用領域における、知識・技能、思考・判断・表現に関する正答率が高い
- ・解の求め方を式や言葉を用いて記述する問題において、正答率が低くなる傾向や無解答の児童が増える傾向が見られる

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好き	53.6	61.4	◇	7.8
算数の勉強は大切だと思う	96.4	94.2		2.2
算数の授業の内容はよく分かる	71.4	81.2	◇	9.8
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	96.4	93.3		3.1

○実際の正答率はおおむね良好であったが、算数の学習が好き、学習の内容がよくわかる、と答えた児童の割合が低い

○児童が自分の考えや、解に至った理由を言葉や数を用いて記述し、よりよく伝え合いながら理解を深めることの良さを実感することができる授業づくりを進めていきたい

○算数での学習は大切であること、社会に出たときに役に立つことについて、多くの児童が感じることができている

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【学校生活の様子】	<p>・先生から自分のよさを認められることで、児童が安心して学校生活を送ることができています</p> <p>・いじめは絶対にいけないことや、友達関係に満足している児童もすべてではありませんが、多くいます</p>	<p>○先生は、あなたのよいところを認めてくれている <92.9/89.8></p> <p>○いじめはどんな理由があってもいけないことだ <96.4/96.9></p> <p>○学校に行くのは楽しい <89.3/85.3></p> <p>○自分と違う意見について考えるのは楽しい <78.6/76.5></p> <p>○友達関係に満足している <92.9/90.3></p>
【学校での学習の様子】	<p>・授業では自分に合った学習の方法を身に付けながら主体的に取り組み、他教科で学んだことを生かして考えをまとめることができています</p> <p>・外国語の学習にも主体的に取り組み、学習したことを生かして外国の人との交流を望んだり、将来の生活や職業を考えたりしている児童が多くいます</p> <p>・学級での話し合い活動や道徳の授業では、互いの意見を生かしながらよりよい解決方法を考えることができています</p> <p>・自分で課題を立てて資料を収集・整理したり、考えをうまく伝えられるよう、工夫して発表したりすることに課題が見られます</p>	<p>○日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う <82.2/78.1></p> <p>○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している <53.5/63.7></p> <p>○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる <89.3/78.8></p> <p>○各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている <82.2/74.4></p> <p>○授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっている <85.7/82.9></p> <p>○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる <64.2/74.8></p> <p>○学級生活をよりよくするために学級で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている <92.9/77.2></p> <p>○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学習やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる <89.3/81.7></p> <p>○英語の勉強は好き <78.6/52.5></p> <p>○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う <67.8/52.5></p> <p>○これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった <67.9/46.5></p>

<p>【自尊感情】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の大人から自分の良さを認められることが多く、自己肯定感が高く将来の夢や目標を持っている児童が多くいます ・人に対して思いやりを持って接し、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童も多くいます 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分にはよいところがあると思う <85. 7/83. 5> ○将来の夢や目標を持っている <85. 7/81. 5> ○人が困っているときは、進んで助けている <92. 9/91. 6> ○人の役に立つ人間になりたいと思う <96. 4/95. 9> ○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはある <89. 2/87. 4>
<p>【家庭学習の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣が身に付いている児童が多いですが、そうでない児童との二極化が見られます ・読書は好きと答える児童が多いですが、普段の読書時間は多くはないようです 	<ul style="list-style-type: none"> ○家で自分で計画を立てて勉強している <78. 6/70. 7> ○学校の授業時間以外に、普段1時間以上勉強している <71. 4/57. 1> ○学校が休みの日に、2時間以上勉強している <32. 2/24. 7> ○学校の授業時間以外に普段30分以上読書をしている <35. 7/37. 3> ○読書は好き <78. 5/71. 8>
<p>【家庭生活の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いです ・全国に比べ、地域のことを考えて何か行動しようとする意識は若干少ないようです 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べている <92. 9/93. 9> ○毎日、同じくらいの時刻に寝ている <85. 7/81. 0> ○毎日、同じくらいの時刻に起きている <96. 5/90. 5> ○地域や社会をよくするために何かしてみたいことがある <75. 0/76. 8>
<p>【ICT 機器の活用】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業での取組みと家庭の協力のおかげで、ICT 機器の活用については、全国をはるかに上回るほどの成果が表れています。 ・ICT 機器の活用は学習に役に立つと答えた児童が100%であることから、ICT を活用した学習に充実感を持って臨んでいる様子がうかがえます 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業でPC, タブレットなどのICT 機器を週3回以上使用している <89. 3/62. 4> ○学習の中でPC, タブレットなどのICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う <100. 0/95. 1> ○学校の授業時間以外に、普段30分以上PC, タブレットなどのICT 機器を使っている（遊びの目的を除く） <71. 4/41. 1> ○宿題として、週1回以上タブレットなどのICT 機器を利用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている <50. 0/29. 5>

本校の取組

◎これまでの取組

本校は泉佐野市の ICT 特認校として、子どもたちが日々の学習場面で ICT 機器の有効活用を図るための具体的研究と実践を進めてきた。研究・実践の過程では、一人ひとりの子どもたちの多様性に対応し、すべての子どもたちの豊かな創造性や「未来社会の創り手」となるべき資質・能力を育むことに焦点をあてて試行錯誤を繰り返しながら取り組んできた。

具体的な研究・実践内容は以下のとおりである

- ・ 昨年度までは研究の柱を『教育の情報化』と定め、年間指導計画等には子どもたちのどのような姿をねらい、どのような場面で活用するのかを明確にした上で、全学年の授業に ICT 活用を位置づけた。
- ・ 『自ら考え、学びを深め合う力』の育成を図ることをねらいとした場面では、子どもたちが Chromebook やアプリケーションを有効に活用する機会を授業の中で意図的に設けてきた。
- ・ 情報活用スキルの『ループリック』を作成し、学習の到達目標を子どもたち自身が意識できるようにし、自らの学習の振り返りにも活かすことができるようにした。このようにすることで、子どもたちが自分の学びを客観的に見つめ、『学び方』を学ぶ機会の充実に役立ててきた。
- ・ 授業の中で自分の思いや考えを書く際には、ICTでの手書き入力とともに、ノートに鉛筆で書く機会も設けながら、『書く力』の育成を図ってきた。
- ・ 認知能力を高め、想像力や判断力を育成するために『コグトレ・オンライン』の活用を進めてきた
- ・ 基礎的・基本的な内容の定着に向け、読み、書き、漢字の確実な習得などに取り組む朝学習を充実させてきた。また、授業ではデジタルとアナログ的な学習の良さを融合させ、互いの良さを引き出せるような取り組みを進めてきた
- ・ 子どもたちが急速に進化するデジタル社会を豊かに生き抜くため、デジタル・シティズンシップ教育の年間指導計画を作成し、系統的な指導を行ってきた。このことにより、子どもたちが自分のメディアバランスを調整する力とともに、自分の現状を客観的に分析し、よりよく行動しようとする力の育成を進めてきた。

◎これからの取組

国語では子どもたちの情意面においても、また正答率においてもおおむね満足できる結果であった。今後さらに児童の言語能力の育成に努め、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習活動を深めるために以下のことに重点を置き取り組んでいくこととする。

- ・ 漢字や文字の習得を確実なものとする。
- ・ 教科書の単元「ことばの宝物」の活用や学んだ言葉を使った文づくりの機会を増やしたり、ICT機器や学校図書館を活用した読書活動を充実させたりすることで、語彙力を養う。
- ・ サンプルとなる定型の文章に沿った形を活用して、自分の考えを書くことができるよう指導を行う。
- ・ 文字や図、グラフなど多種多様なテキストを読み取る機会を意図的に設け、課題の解決に向けて必要な情報を選択できる力を養う。
- ・ 読み取ったことや感じたことを「書く」場面では、個々の学習状況に合わせ、キーワードをつなぎ合わせたり、分量を調整しながら書く指導を行う。一人ひとりの状況に合わせた指導を大切にしながら、相手にわかりやすく伝えることができる表現力を養う。
- ・ 児童が主体的に「読みたい」「書きたい」「伝え合いたい」と思うことができるよう、学習展開の工夫を全教職員でさらに進める。

算数の学習では、正答率においておおむね満足できる結果ではあったものの、情意面においては課題が見られた。子どもたちは算数の学習の有用性を感じているだけに、今後さらに主体的に学習に臨むことができるよう、以下のことに重点を置き、取り組んでいくこととする。

- ・ 児童が知的好奇心を揺さぶられながら、主体的に問題解決に向かうことができるような教材との出合わせ方を工夫する。

- ・ 自分で考える時間や、考えをノートやICT機器に書き留める時間を保障し、グループ交流や集団交流時には、自分の考えを持った状態で向かうことができる学習展開を進める。
- ・ 児童が自分の考えを自分の言葉で発表する場面を多く設け、数学的な思考力や表現できたことへの喜びに繋げる。
- ・ 1人の児童の発表を、教師の言葉でまとめて伝えず、聞き手の児童がつないで説明する機会を多く設けながら学習を深めていく。
- ・ 算数の用語を正しく使うことで、数学的な表現力を養うとともに、筋道立てて考える力を養う。
- ・ 学習をふりかえる時のポイントを明確にして書くことで、児童が算数の学習における成果や充足感を味わうことができるようにする。

児童質問紙からは、学校での生活を充実して過ごし、自尊感情を高く持っている児童が多くいる傾向が見られた。また、英語に対する関心・意欲が高いことや、泉佐野市のICT特認校として研究・実践を進めてきたICT教育についても、児童がICT機器の活用の意義を実感しており、将来に生きてはたらく力となっていることがわかった。

一方、課題の見られた点については、改善に向けて以下のように取り組んでいくこととする。

- ・ 児童は学習課題の解決に向けて、主体的に考え取り組んでいる。授業では、今後さらに発表場面の充実を図り、自分の思いや考えをわかりやすく伝える力の育成を図る。
- ・ 総合的な学習の内容や展開を検証し、児童たちが主体的に取り組み、学習後の充実感を持つことができるよう工夫を図る。
- ・ 読書は好きであるが、読書をする時間が少ない傾向である。学校図書館司書との連携を図り、蔵書の精選や学校図書館の環境整備の充実を図る。
- ・ 現在、朝の学習の時間に行っている「ホンヨムデー」や、泉佐野市と連携して進めている読書通帳の取組、移動図書館（ルリビタキ）の有効活用を継続的に行っていく。
- ・ 調べ学習の際には、ICT機器の活用とともに、本の有効活用を進める。
- ・ 家庭への情報発信に努め、読書環境の充実を図ってもらうよう啓発する。